

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200255		
法人名	有限会社 敬友会		
事業所名	グループホーム花乃苑石井		
所在地	徳島県名西郡石井町藍畑字東覚円70-3		
自己評価作成日	平成28年1月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

光をいっぱいに取り入れた明るい苑内と清潔感を大切にしている。広々とした中庭で春には桜、秋にはコスモスなど季節感を味わっていただけるようにしている。職員一人一人が利用者の思いや願いを理解するように、寄り添ったケアを心がけている。毎日の生活の中で利用者それぞれが役割を持ち、自信や意欲の向上に繋がっている。苑での生活状況を家族に知らせるようにし、利用者の生活を身近で感じられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は静かな田園地帯に位置しており、木材を基調とした暖かみのある建物となっている。また、どの部屋からも中庭を眺めることのできる構造となっている。中庭には季節の草木を植えており、季節の移り変わりによる風景の変化を楽しむことができ、利用者の楽しみのひとつとなっている。職員は、理念“明るく、笑顔がたえない関係”の実現に向けて、日頃から利用者との関わりに努めている。食事は事業所内で調理しており、利用者の希望を取り入れたり、季節のメニューを考えたりして、食事の時間を楽しむことができるよう配慮している。週1回、協力医療機関による訪問診療があり、利用者の健康管理に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げるようにしている。苑内の目のつく場所に掲げ、常に意識し、職員全員が同じ方向に向かい、ケアに携わっている。	職員間で事業所の役割を話し合い、独自の理念を作成している。朝礼時に全職員で理念を唱和し、共有化を図って取り組んでいる。機会あるごとに理念の指し示す方向を再確認し、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花乃苑祭りや、避難訓練の際に地域の方々の参加がある。また地元の小学生や幼稚園児が来苑され、表現会等、交流が来ている。野菜の差し入れをして頂く事もある。	日頃から、事業所が地域と繋がって関わるができるよう意識して取り組むよう努めている。地域の小学生や幼稚園児の来訪がある。また、事業所の夏祭りなどの際にも、地域の方々子どもたち、また、阿波踊りや御輿の来訪がある。利用者や職員で近隣の学校の表現会に出向くこともある。散歩中に住民の方から声かけをもらったり、野菜を差し入れてもらったりするなど、地域との関係を保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して下さる民生委員や役場の方々にケアの拠点として出来ることはないかと相談している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、取り組み状況の報告を行なっている。会議でいただいた意見をまとめ、回覧し、必要であれば、職員間で会議を行い、サービスの向上に努めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の行事内容や対応の困難な事例を報告している。出席者から様々な意見をもらいサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは運営推進会議や相談がある時等に、関わっている。また、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。	事業所には、運営推進会議の参加時のみならず、町の介護保険課の担当職員が頻繁に来訪してくれている。来訪時には町担当者に相談にのってもらうなど、良好な関係を築いている。また、町の防災専門家の来訪もあり、災害マニュアルづくりに関してアドバイスをもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の実施。また、身体拘束をしない為にはどうすればいいのか、を常に考え実践している。家族の理解もいただいている。	事業所内で身体拘束等の弊害に関する勉強会を開催し、職員間で共有化を図っている。職員間で身体拘束に繋がっていないかなどを話し合っている。やむを得ず拘束が必要な場合には、書面で家族の了解を得たり、職員間で話しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施。事業所内で虐待が見過ごされる事のないように注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいっしょに、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問を十分聞き、理解、納得されるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見を言えるような環境づくりを心がけている。	事業所では、家族の来訪時や毎月の利用料の支払い時などに、家族と話し合うようにしている。来訪の機会が少ない家族には、毎月、個別に“苑便り”や“生活状況だより”を作成して送付し、意見を聞いている。日頃から職員は、利用者の些細な表情の変化や行動等から意向を汲み取るよう努め、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、積極的に意見、提案出来る様にしている。	代表者は頻りに事業所に来ており、その際に職員の意見や提案を聞くようにしている。管理者は、職員が意見を言いやすいよう、日頃から関係づくりに努めている。職員が意欲をもって働くことができるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、安心して働ける環境を作っている。研修などにも積極的に参加でき向上心をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外での研修を設けている。資格取得についても、勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の社会福祉施設への相互研修を行う事によって親睦を深めると共に、良いところを吸収しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の思いや、不安等を理解し、寄り添ったケアを心がけ、少しでも早く信頼関係を築き、安心して過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が体験してきた苦勞を理解し、困っている事はないか、またニーズは何なのかを十分傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、可能であれば、馴染みの関係が出来る様に、本人に会いに行き短時間でも話をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員がもち、接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、利用者の状況を伝えるようにしている。遠い家族にもお便りや電話で伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお墓参りに出かけている。知人や家族の面会が少ない方には電話や手紙の支援を行なっている。	家族の協力を得たうえで、利用者一人ひとりの馴染みの場所や外食、一時帰宅、外泊、法事等への外出を支援している。地域の公民館に出かけて、馴染みの方との再開や会話を楽しむ利用者もいる。これまでの馴染みの場所や人との関係が途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、トラブルがないように、楽しく生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族から手紙などで、状況を知らせてくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での表情の変化や、言動からも思いや願いを把握するように努め、職員間で情報の共有をしている。	職員は、利用者一人ひとりの状態に応じたコミュニケーションのとり方を工夫している。些細な表情の変化などから思いや意向を汲み取るよう努めている。また、家族や関係者にも話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況を総合的に把握し、本人のペースに合わせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で意見や希望を聞き計画に反映している。職員間で意見交換し、必要であればケースカンファレンスを随時実施する。	原則として6か月ごとに介護計画書を見直している。利用者の心身状況に変化が見受けられた際には、そのつど、計画を見直している。モニタリングを行い、本人や家蔵、担当職員等の意向を反映し、本人本位の介護計画となるよう配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の状況がわかるように記入している。職員間で情報の共有を図り、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリが必要と思われる方は訪問リハを利用し、福祉用具も本人に必要なと思われるものをレンタルしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、周辺情報や情報交換、居力関係を築けている。町の商店や、美容院に行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医の受診支援、協力医療機関とは24時間の連携体制をとっている。必要に応じて内科以外の科の受診支援も行なっている。	利用者のかかりつけ医の受診を中心とした支援を行っている。そのうえで協力医療機関と24時間の医療連携体制を構築するなどしている。医療機関の受診時には家族の協力を得ており、職員と連携をとりあって適切な医療を受けることができるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見に努め、担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と連携を密にし、心身状況など情報交換をしながら、退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のあり方について、本人・家族とも話し合い、対応できる最大のケアについて説明し、担当医との協力体制も踏まえて、安心できるような支援に取り組んでいる。	入居時の段階で、重度化や終末期に関する事業所の方針を本人や家族に説明している。やむを得ず重度化に至った場合には、管理者が家族に意向を確認したり、必要に応じて医師を交えて話し合ったりしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員間で周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。春の訓練では地域の方々にも参加して頂いている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。日中は消防署の指導のもと、婦人会等の協力を得て訓練を行っている。夜間には地域の協力を得て訓練を行っている。居室に名札を準備し、状況が分かるよう色分けするなど、避難時に役立つように工夫している。避難場所や避難方法についても検討している。また、事業所は、地域の婦人防災クラブの炊き出し訓練にも参加しており、日頃から地域と連携しつつ災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに配慮した声かけ、対応が出来ているか職員間で確認しあう。	職員は利用者一人ひとりの習慣や思いを尊重した支援に努めている。支援が必要などときには、利用者の立場に立って全職員で話し合っている。本人の気持ちに寄り添い、一人ひとりの人格やプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かな事柄や、表情の変化を見逃さないように努めている。表現が難しい方には、選択していただくようなアプローチで反応を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、無理強いせず、その方のペースにあわせて意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、化粧をする方もいる。好きな服を自由に着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に献立を考えたり、買い物に行く事もある。行事食を企画したり、季節を感じられるメニューを心がけている。	事業所では、利用者と職員で食事の準備等を協力して行っている。会話を楽しみつつ下準備や食事を行うことで、食への関心や生活の流れを感じてもらっている。献立には利用者の希望を多く取り入れている。季節の料理や行事食など、バラエティのあるメニュー作りを心がけ、食事が楽しくなるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、不足しないように管理している。食べやすいように、その方に合った食器や机を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施をしている。インジンや緑茶、口腔ケア用品を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで自立した排泄を支援している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。日中はトイレ誘導を基本とし支援している。夜間は利用者の心身状況に応じて排泄支援を行い、トイレでの排泄の自立に向けたケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量に注意している。日常の運動機会の確保。担当医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、希望に合わせて入浴して頂いている。菖蒲湯、柚子湯など楽しんでいただいている。できるだけ同姓での介護を実施している。	事業所では、利用者一人ひとりの希望や状況に応じ、柚子湯や菖蒲湯等を取り入れており、楽しんで入浴ができるような工夫を行っている。少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。入浴時間の希望を聞き、朝から夜まで利用者一人ひとりが気持ち良く入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息していただいている。歌や、ラジオを聴きながら眠られる習慣のある方には、他の方の迷惑にならない程度でお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明と、薬剤師からの説明をファイルし、全員が把握出来る様にしている。新たに処方された薬は速やかに周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、洗濯、花のお世話等、日々の生活にやりがいを持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族行事に参加したり、天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物にいたりしている。季節に応じた外出行事を企画し実施している。	事業所では、日頃から地域へ散歩や買い物に出かけている。家族の協力を得たうえで、一時帰宅や外泊、食事にも出かけている。屋外で気持ち良く過ごすことができるよう、計画的に取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			さくら 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人ごとに金銭を預かり、外出時に使用したり、必要品を購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援をしている。判断が難しい方は、家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、季節の花や鉢植えを置いている。太陽の光をたくさん取り込んで明るい共有空間を作っている。	事業所は材木を多く用いた造りとなっており、暖かみのある雰囲気がある。中庭には季節の草木を植えており、廊下や食堂などから眺めることができる。共有空間の壁面には、季節の飾り付けをしている。リビング・ダイニングや玄関ホールには談話スペースもあり、多くの利用者が集まることのできる居心地の良い場所となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好きな場所で、のんびり日向ぼっこをしたり、テーブルを囲んで気の合う物同士が賑やかに会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、物を使用させていただきようにしている。写真を飾っている。	事業所では、利用者や家族と相談し、柔らかい床材を居室に敷いて転倒防止を図るなどの工夫を行っている。利用者の好みで和室と洋室から選ぶことができるようにしている。居室内には、利用者の使い慣れた家具や化粧品、家族の写真等を持ち込んでもらっている。利用者一人ひとりにとって居心地の良い居室となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室などの共有部分や、自室がわかりやすいように、利用者の目の高さにあわせて装飾している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を読み上げるようにしている。苑内の目のつく場所に掲げ、常に意識し、職員全員が同じ方向に向かい、ケアに携わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花乃苑祭りや、避難訓練の際に地域の方々の参加がある。また地元の小学生や幼稚園児が来苑され、表現会等、交流が出来る。野菜の差し入れをして頂く事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席して下さる民生委員や役場の方々にケアの拠点として出来ることはないかと相談している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、取り組み状況の報告を行なっている。会議でいただいた意見をまとめ、回覧し、必要であれば、職員間で会議を行い、サービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町役場の担当者とは運営推進会議や相談がある時等に、関わっている。また、問題解決に向けて一緒に取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の実施。また、身体拘束をしない為にはどうすればいいのか、を常に考え実践している。家族の理解もいただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の実施。事業所内で虐待が見過ごされる事のないように注意をはらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいらっしやり、機会あるごとに職員への説明を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、家族の不安や疑問を十分聞き、理解、納得されるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見を言えるような環境づくりに心がけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、積極的に意見、提案出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場で起きている状況や変化を知り、安心して働ける環境を作っている。研修などにも積極的に参加でき向上心をもてるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苑内、外での研修を設けている。資格取得についても、勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の社会福祉施設への相互研修を行う事によって親睦を深めると共に、良いところを吸収しサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の思いや、不安等を理解し、寄り添ったケアを心がけ、少しでも早く信頼関係を築き、安心して過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が体験してきた苦労を理解し、困っている事はないか、またニーズは何なのかを十分傾聴するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始する前に、可能であれば、馴染みの関係が出来る様に、本人に会いに行き短時間でも話をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員全員がもち、接するように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には、利用者の状況を伝えるようにしている。遠い家族にもお便りや電話で伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やお墓参りに出かけている。知人や家族の面会が少ない方には電話や手紙の支援を行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、トラブルがないように、楽しく生活が送れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された家族から手紙などで、状況を知らせてくださる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常での表情の変化や、言動からも思いや願いを把握するように努め、職員間で情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や、家族から情報をいただき、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状況を総合的に把握し、本人のペースに合わせるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のかかわりの中で意見や希望を聞き計画に反映している。職員間で意見交換し、必要であればケースカンファレンスを随時実施する。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し、毎日の状況がわかるように記入している。職員間で情報の共有を図り、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリが必要と思われる方は訪問リハを利用し、福祉用具も本人に必要なと思われるものをレンタルしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、周辺情報や情報交換、居力関係を築けている。町の商店や、美容院に行く。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医の受診支援、協力医療機関とは24時間の連携体制をとっている。必要に応じて内科以外の科の受診支援も行なっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の早期発見に努め、担当医に相談し適切な治療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者や家族と連携を密にし、心身状況など情報交換をしながら、退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や、終末期のあり方について、本人・家族とも話し合い、対応できる最大のケアについて説明し、担当医との協力体制も踏まえて、安心できるような支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、職員間で周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。春の訓練では地域の方々にも参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格やプライバシーに配慮した声かけ、対応が来ているか職員間で確認しあう。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の細かな事柄や、表情の変化を見逃さないように努めている。表現が難しい方には、選択していただくようなアプローチで反応を見て対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、無理強いをせず、その方のペースにあわせて意向に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、化粧をする方もいる。好きな服を自由に着られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に献立を考えたり、買い物に行く事もある。行事食を企画したり、季節を感じられるメニューを心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、不足しないように管理している。食べやすいように、その方に合った食器や机を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施をしている。インジンや緑茶、口腔ケア用品を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、できるだけトイレで自立した排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量に注意している。日常の運動機会の確保。担当医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調、希望に合わせて入浴して頂いている。菖蒲湯、柚子湯など楽しんでいただいている。できるだけ同姓での介護を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息していただいている。歌や、ラジオを聴きながら眠られる習慣のある方には、他の方の迷惑にならない程度でお願いしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当医の説明と、薬剤師からの説明をファイルし、全員が把握出来る様にしている。新たに処方された薬は速やかに周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や、洗濯、花のお世話等、日々の生活にやりがいを持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族行事に参加したり、天気の良い日は散歩に出かけたり、買い物にいたりしている。季節に応じた外出行事を企画し実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ひまわり 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人ごとに金銭を預かり、外出時に使用したり、必要品を購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙の支援をしている。判断が難しい方は、家族に相談している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の掲示物を飾ったり、季節の花や鉢植えを置いている。太陽の光をたくさん取り込んで明るい共有空間を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の好きな場所で、のんびり日向ぼっこをしたり、テーブルを囲んで気の合う物同士が賑やかに会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、物を使用させていただくようにしている。写真を飾っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。トイレや浴室などの共有部分や、自室がわかりやすいように、利用者の目の高さにあわせて装飾している。		